

クロマグロ 沖合まき網操業と養殖

日本経済調査協議会 第7回

 MARUHA NICHIRO
2021年12月17日

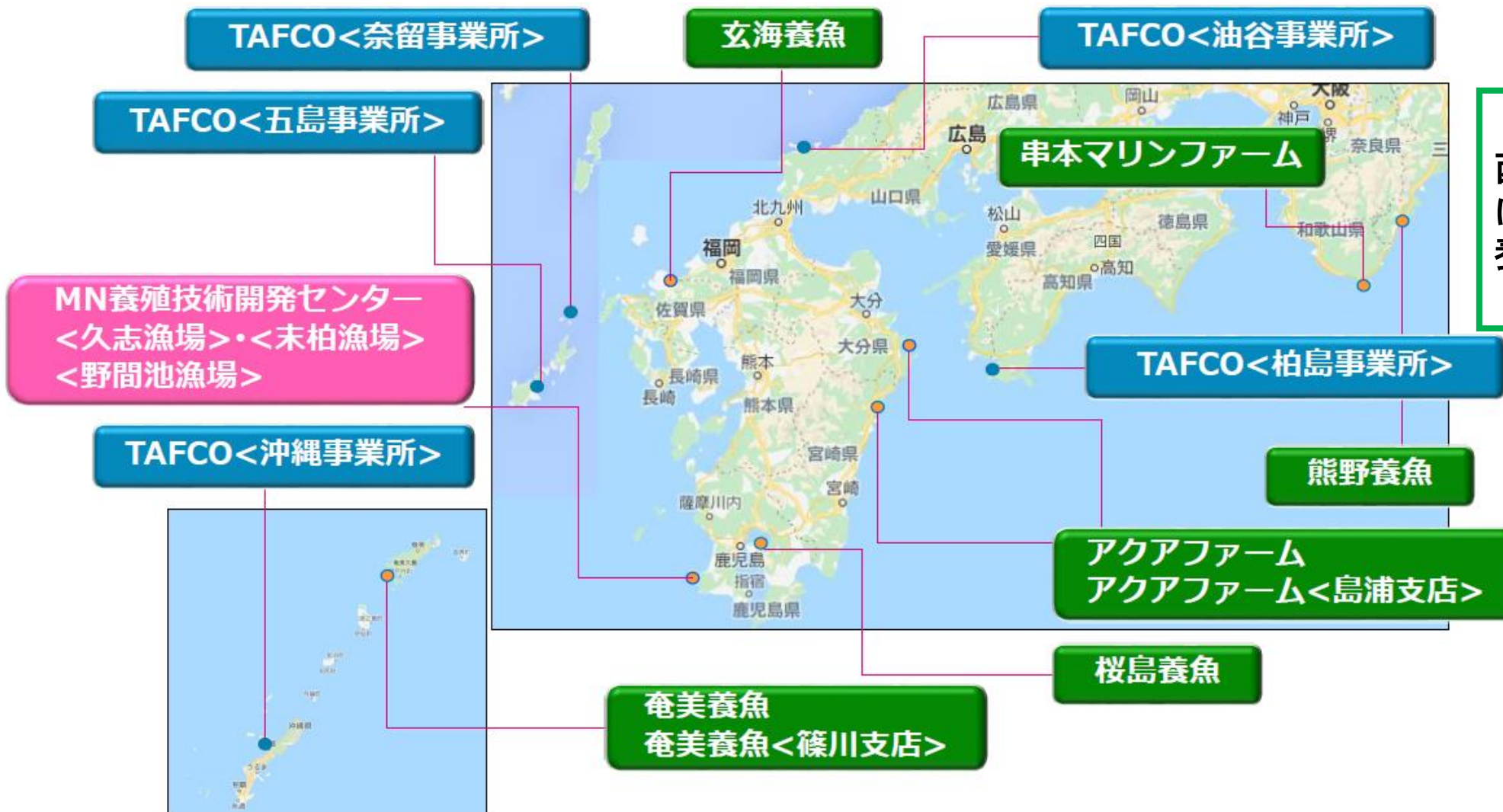
国内 沖合まき網漁業



国内では1ヶ統で沖合まき網漁業を展開。サバ・イワシなどの青物、カツオ、そしてクロマグロといった組み合わせで年間操業を行う。



マルハニチログループ 養殖関連の事業所



西日本から沖縄にかけてクロマグロを始め養殖業を展開。



天然クロマグロ



今年度(2021年)度のクロマグロの漁獲
枠は約1万ト、その内約4割の4千トは
30kg未満の小型魚。

今月(12月)WCPFCで認められた15%の
増枠は30kg以上の大型マグロが対象。

マグロを含め我が国では、幼魚を漁獲し
て「成長乱獲」を起こしている例が少なく
ない。



大西洋クロマグロ



大西洋クロマグロでは150kg前後にもなるクロマグロを半年ほどかけて畜養。

我が国では2kg前後の幼魚を3～4年かけて出荷。



改正漁業法施行と科学的根拠に基づく水産資源管理の必要性



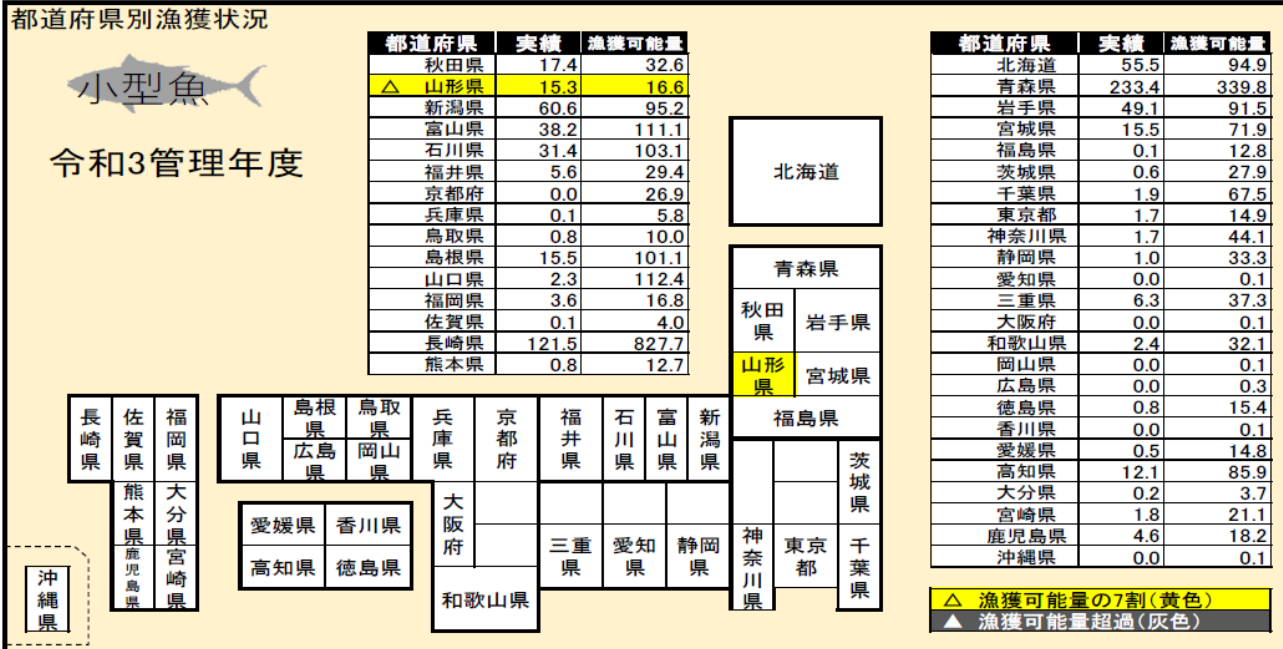
クロマグロの沖合まき網漁業で、ビデオカメラの設置に協力。

小型マグロ使用用途

令和3管理年度の漁獲状況(令和3年8月31日時点、令和3年9月28日公表)

(単位:トン)

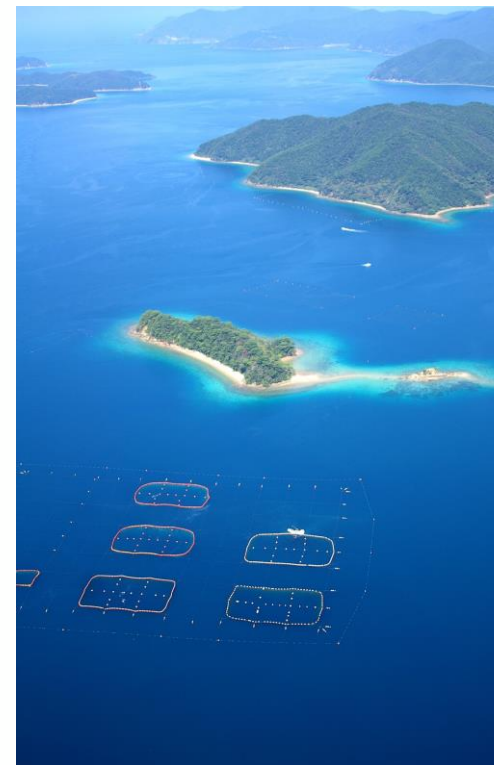
30kg未満小型魚	1,423.2	【漁獲可能量 4,438.1】	(消化状況 32.1%)
		(うち 留保 253.0)	
大臣管理区分	722.2	【漁獲可能量 1,651.8】	(消化状況 43.7%)
くろまぐろ(小型魚)大中型まき網漁業	608.5	【漁獲可能量 1,535.2】	
くろまぐろ(小型魚)かじき等流し網漁業等	33.6	【漁獲可能量 48.4】	
▲くろまぐろ(小型魚)かつお・まぐろ漁業	80.3	【漁獲可能量 68.2】	
都道府県	701.0	【漁獲可能量 2,533.3】	(消化状況 27.7%)



約4,000トンの小型マグロの漁獲枠の内、沖合まき網では約半分、全体で約1割が養殖に向けられる。

※1 漁獲可能量は、2021年7月30日公表の値を使用。
 ※2 実績は少数第二位を切り上げて表示。そのため、合計値が一致しない場合がある。

SDGs への取組み : 環境負荷を考慮した餌料 ~ 配合飼料



養殖で生エサの20%を配合に置き換え。天然由来の餌の使用を減らす工夫。

食用にされないサバが4割もある日本 ノルウェーは実質100%食用向け

生鮮さば類 32漁港用途別出荷実績(水産庁)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	平均	単位(%)
魚油・飼肥料	2.3	0.4	0.7	0.6	1.3	2.1	2.3	3.4	2.6	0.8	1.7	
養殖・漁業用餌料	31.6	29.9	36.3	28.5	30.1	30.5	32.2	36.0	58.6	39.9	35.4	
合計	33.9	30.3	37.0	29.1	31.4	32.6	34.5	39.4	61.3	40.6	37.0	



ノルウェーでは個別割当制度(IVQ)が機能しているため、価値が低いサバの幼魚は漁獲しない仕組みがされている。

(マルハニチロ・日本経済調査協議会 第2回)

クロマグロ 枠の配分について

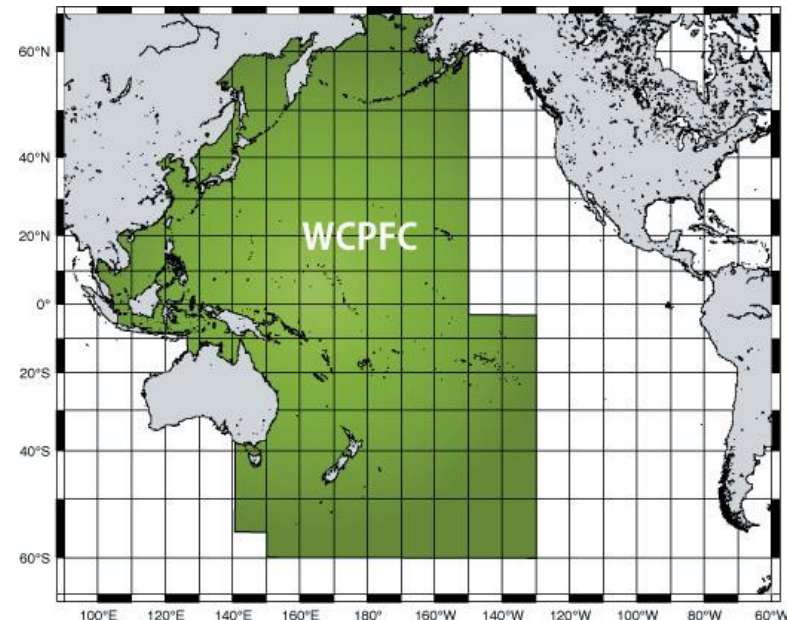
「第5管理期間以降の配分の考え方」のポイント

○ 平成30(2018)年のくろまぐろ部会でとりまとめられた「第5管理期間以降のくろまぐろの漁獲可能量の配分の考え方」のポイントは、以下のとおり

- 第5管理期間以降の基礎的な配分は、WCPFCの基準年(2002-04年(平成14-16年))を基本として、近年の漁獲実績(平均漁獲実績)を勘案して配分するもの(第4管理期間と同様)とし、配慮すべき事項は留保から配分。
- 実績以外に配慮すべき事項としては、
 - ① 混獲回避の負担、経営の依存度等を考慮し、大型魚については、管理体制が整っていない沿岸漁業等へ配慮。
 - ② 資源評価に用いるデータの収集を考慮し、「沿岸漁業の一部ひき縄漁業」及び「近海かつお・まぐろ漁業(はえ縄)」に対して配慮。
- その他管理について、各都道府県等の漁獲枠の遵守を基本としつつ、漁獲枠の融通の仕組みを策定。

水産庁・日本経済調査協議会 第6回

WCPFC条約第5条「零細漁業及び自給のための漁業者の利益を考慮に入れること。」



科学的根拠に基づく「水産資源の持続性」



漁業者・漁法間で「水産資源の持続性」を最大限に意識した仕組み作りを。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標





MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる